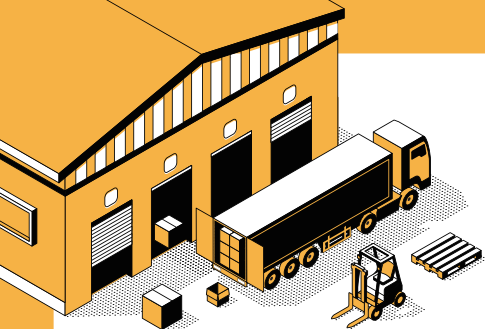




今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進により、物流現場改善は大きなテーマとなっています。そのため現場力の向上やIT、DXの導入に力を入れていく必要があります。ただし、無計画に多額の投資を行っても大きな成果は得られません。物流現場の課題である労働力不足を知恵と工夫で改善し、乗り切っていく必要があるのです。そこで今回は、ホワイト物流を念頭に置きながら改善事例を紹介します。

知恵と工夫による事例

「道路状況をまとめた地図の作成」

課題

トラックの輸配送経路について、TMS（輸配送管理システム）でルート最適化を実施。その結果、従来のルートは短縮化されたが、渋滞や事故、工事現場などの道路状況に対応できず、想定よりも時間がかかってしまうという新たな課題が発生した。

対策

ドライバーにヒアリングを行い、渋滞や事故多発地域などの道路状況を地図にまとめて、該当経路を回避するように指導した。

効果

- ・納品時間の大幅な遅延を回避。
- ・ドライバー同士が道路、運送情報を共有できるようになった。

〈改善前〉

TMSでルート最適化を図っているが、渋滞や工事現場などに直面し、“ルートは最短距離でも思わぬ時間がかかってしまった”

〈対策・効果〉

ドライバーが現場で得た道路情報を地図に記入し、真的ルート最適化を実現



ITを活用する事例

「IT点呼の実施」

課題

ドライバー不足への対策を考えると、点呼にかかる手間や関連書類作成の効率化、また運行管理者の負担も軽減したい。Gマーク取得を契機に改善策を模索している。

対策

運行管理者による対面点呼を「IT点呼」に切り替えた。IT点呼はGマーク取得など一定の条件を満たした営業所として認められている。

効果

- ・遠隔地からでも点呼可能なことから、ドライバーが点呼のためだけに営業所に帰庫する必要がなくなり、運行管理者の労働時間や人件費を削減。
- ・点呼簿などのデジタル化を実現し、データ管理が容易に。

〈改善前〉

運行管理者が乗務にあたって自動車や道路の状況、健康状態、アルコールチェックなどを“対面”で実施。人材不足が続く中、ドライバー・運行管理者の負担が大きかった

〈対策・効果〉

IT点呼の導入により、労働時間の削減や書類作成の効率化を実現



鈴木 邦成（すずき くにのり）

物流エコノミスト、日本大学教授（在庫・物流管理など担当）。博士（工学）（日本大学）。早稲田大学大学院修士課程修了。日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』（NTT出版）、「入門 物流（倉庫）作業の標準化」（日刊工業新聞社）。